

21年5月15日 氏名 安田英二郎

	私がハンググライダーを始めたころ、箱根
のエリアには、ハンググライダーのスクール	
が4つも5つもありました。大きなスクール	
では200名を越えるスクール生き抱え、早	
めに予約しないとスクールを受講できません	
でした。スクールを卒業して山飛びするよう	
になつたころには、パラグライダーが爆発的	
に普及を始め、空が一気に狭くなりました。	
ところが、今では、箱根エリアにハンググ	
ライダーースクールはゼロ。パラグライダーで	
飛び人も減り、週末の空も混みあいません。	
新人が入らぬるので、私が所属するクラブの	
会員の平均年齢は、毎年、1つずつ増えてい	
ります。	
人気が調落しているのはスカイスポーツ一時だ	
けではあります。スキースノーボード、	
ダイビング、ウインドサーフィン、多くの競	
スポーツが競技人口を減らしているので、こ	
れは、もはや時代の流れなのかかもしれません。	
しかし、このまま傍観していっては、スカイ	
スポーツは本当に絶滅する恐れがあります。	
少しでもJHFに力の残しているうちに、ス	
カイスポーツの長期低迷傾向に歯止めをかけ	
ましよう。	
そのためには、広報を増やす、ニュースを	
積極的に流す、体験会を開催するなど、考え	
うれることはやりましょう。スカイスポーツ一時	
の普及に力をそそぎたいと思します。	
また、危険なことを世人に教めることは躊	
躇されます。ですから、安全なくして普及は	
ありません。きちんとルールを守れば安全に	
飛べるよう努力したいくらい思します。	
JHFの組織とこれは、一層のスマート化を	
図り、限られた資源を、最も効率で、最も有	
効な分野に集中すること、現在の状況に応じ	
た適切配分を図ることが必要と思します。	

※枠内に800文字以内で意思表明をしてください。(一般にも公開されます)

この用紙に代えてテキストファイル(txt)で提出することも可とします。詳しくは「立候補意思表明書の作成と提出について」をお読みください。